

松島本渡線埋蔵文化財（津秦Ⅱ遺跡第14次）発掘調査

現地説明会資料

平成29年3月4日（土）午後1時30分～3時

和歌山市教育委員会

公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

1. 調査の概要

- (1) 遺跡名：津秦Ⅱ遺跡
- (2) 所在地：和歌山市津秦地内
- (3) 調査主体：第二阪和・京奈和・街路建設事務所
調査指導：和歌山市教育委員会 文化振興課
調査機関：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター
- (4) 調査期間：平成29年1月10日～現在継続中
- (5) 調査面積：622.69 m²

2. 調査の成果

和歌山市では、市道松島本渡線の道路建設に伴い、平成24年度から和歌山市津秦地内において津秦Ⅱ遺跡、井辺遺跡の発掘調査を継続的に行ってきました。津秦Ⅱ遺跡や井辺遺跡が存在する一帯を含めて、北方の秋月や鳴神、また南方の神前や和田にかけては、紀ノ川下流域の南岸平野部に営まれた縄文時代晩期以降の集落（ムラ）の跡が近年いくつか発見されています。

市道松島本渡線建設に伴うこれまでの発掘調査においても、縄文時代晩期から弥生時代前期（約3,000年前）、津秦や井辺周辺で人々が生活を始めた頃に流れていた河川や、その周辺に広がる自然堤防（微高地）などの古い地形がいくつか見つかっています（第1図）。そして、自然堤防部分の調査では、当時の人が使った土器や石器、また墓などが見つかっています。

弥生時代から古墳時代（約2,600～1,600年前）、河川や自然堤防背後の低い土地は、洪水などで流されてきた土砂によって埋められ、水田や畑などとして利用されていることが分かりました。調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（約1900～1700年前）の水田（生産域）と集落（居住域）が見つかり、その境には区画または灌漑用の水路として溝（写真1～3）が多数掘られていました。これらは、当時の集落内の様子を示すものとして興味深いものです。

今回の調査では、平安時代から鎌倉時代（約1,000～800年前）にかけての耕地開発を示す素掘り井戸や石組み井戸（写真4）、水田や畑作にかかわる耕作溝（写真5）などが多数見つかりました。特に鎌倉時代の耕地開発は、前述した自然堤防の高まりを削り、平坦な農地を造成するという大規模な土地改変と言えるものでした。このことは、津秦が平安時代の終わりから鎌倉時代にかけて日前宮領であったことから、当時の荘園経営によるものと考えられます。

最後に、地震活動にかかわる痕跡として液状化の跡（噴砂）を確認しました（写真6）。この

噴砂は、鎌倉時代の耕地開発が行われる前に発生していることから、鎌倉時代以前の地震痕跡と考えられます。その後の地震活動による痕跡は確認できませんでした。

3. まとめ

松島本渡線建設に伴う発掘調査では、縄文時代晩期頃の地形環境の一端を確認し、自然環境に少しずつ手を加え、巧みに利用し集落を営んだ弥生時代や古墳時代の人々、治水・灌漑技術の進歩とともに大規模に地形を改変し耕地開発を行った鎌倉時代の人々など、津秦・井辺における自然環境と人間生活との歴史を理解するうえで重要な痕跡を確認することができました。



写真1 調査区全景（南から）



写真2 弥生時代後期から古墳時代初頭の溝（北から）



写真3 古墳時代前期の溝（写真手前、北西から）



写真4 鎌倉時代の石組井戸（東から）



写真5 鎌倉時代の溝（北西から）



写真6 地震痕跡 噴砂（写真中央、北西から）